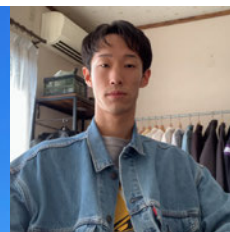


回帰

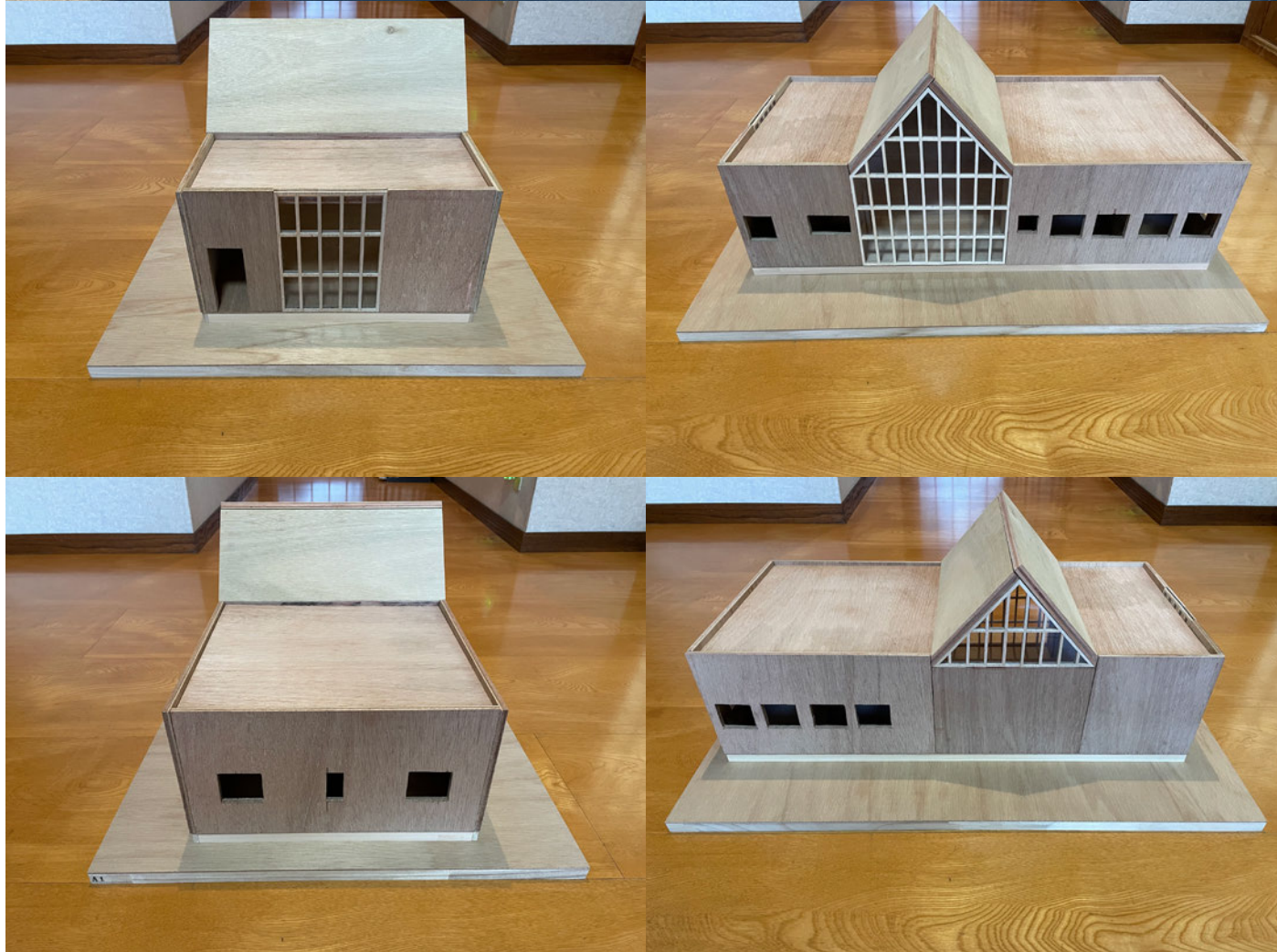
～田舎に住まう～



松永賢哉
建築設計計画Ⅰ研究室

□プログラム

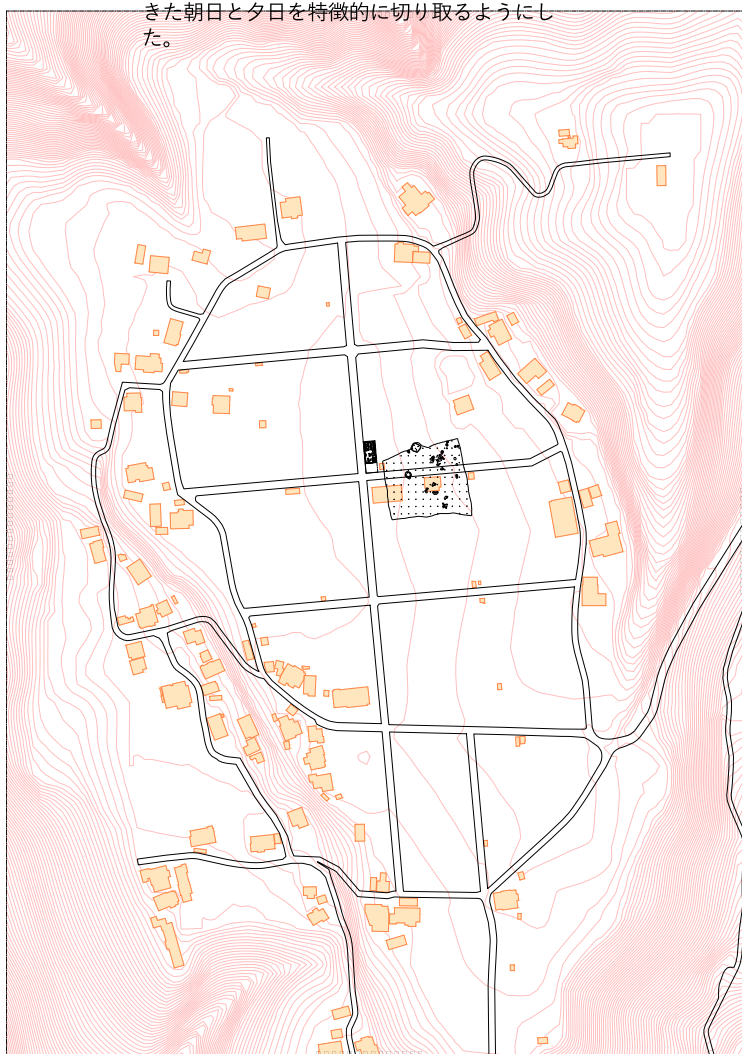
私は山梨の地元で住居を建てるプロジェクトをした。私の地元は人口約1.1万人の田舎町で街灯はわずかしがなく夜になると辺りが真っ暗になるような場所だが、自然の力を感じる力強い土地である。2007年には発掘調査により縄文時代の遺跡が見つかった。大学生活で上京をし、都会で生活をしてみた今、改めて自分が生まれ育った歴史あるこの土地を見つめ直し、住居を設計してみた、テーマにした。





□コンセプト

この台地に先人が住みつき暮らしをし、そこで見てきたものを想起して記憶に触れる。太陽と月を頼りにしてた時代は日の出とともに起き、日の入りとともに寝るというのが基本だったがそれは現代の生活リズムでは難しいことであるため、1日の始まりである朝食と終わりであるくつろぎの場を中心に設計に落としこんだ。切妻屋根と開口部は先人が見てきた朝日と夕日を特徴的に切り取るようにした。



□デザイン

先人の住まいであった竪穴住居の垂直性を想起させる切妻屋根とモダンなデザインの陸屋根は、過去と現在を結びつける。東西方向に現れる切妻屋根の開口部からは朝日と夕日が特徴的に差し込み、朝食とくつろぎのシーンを色付ける。朝日はより室内を明るく、夕暮れ時は白い壁も赤く染まる。大胆に開かれた東側に対し、道路のある西側は絞られた開口部でプライバシーを守る。内部は白壁と温かみのある木材で調和の取れたデザインに仕上げた。

